

# 「学生自身による学修のPDCAサイクルの確立」に向けて －「教学マネジメントの確立」との両輪を目指して－

東京理科大学

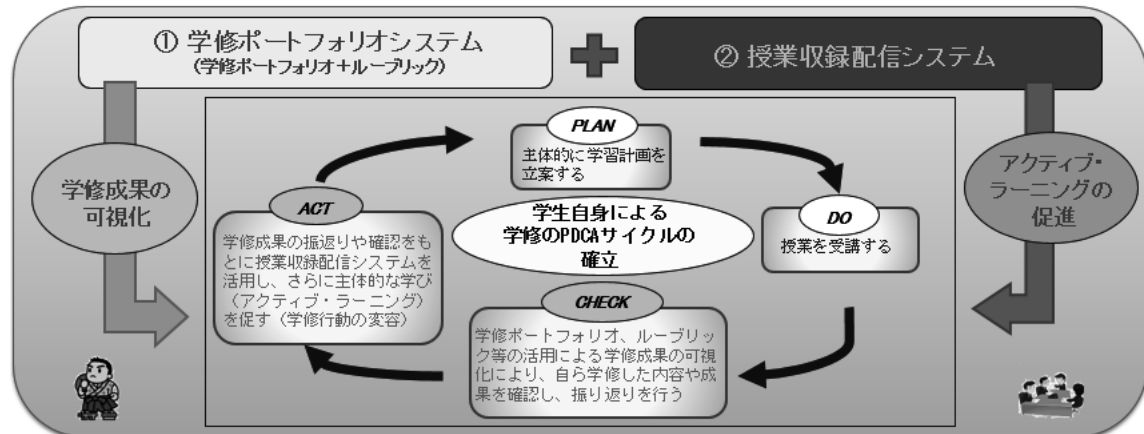
発表者1 佐伯 昌之(教育開発センター ICT活用教育推進小委員会委員長

/理工学部 土木工学科 教授)

発表者2 上村 悠(理工学部 土木工学科 3年)

## 1. 本学における教育改革に係る取組と背景

学生が、卒業後に社会で活躍するためには、大学において「何を目的として、どのような内容を、どこまで学ぶのか」等を主体的に考え、実践できる力を身に付けることが非常に重要であり、本学では、教育の質保証・向上のためのサイクルの中に次の①及び②の取組を構築し、「学生自身による学修のPDCAサイクルの確立」を目指している。



### ①「学修ポートフォリオシステム」による学修成果の可視化

学生は、「自己評価レーダーチャート(自身で作成)」と「客観評価レーダーチャート(取得単位、成績等により自動算出)」を比較し、「何を学び、何が身に付き、何が身に付いていないか」等を視覚的に確認し、「学修の振り返り」や「目標設定」ができる点が最大の特長。

### ②「授業収録配信システム」によるアクティブ・ラーニングの促進

授業内容をデジタルコンテンツ化し、LMSで配信することで、学生は、「いつでも、どこでも、繰り返し、理解できるまで」学修することができる点が最大の特長。

さらに、本取組の実質化、質の担保等を目的とし、関連テーマに基づくセミナー等の開催、学外の有識者によるアクティブ・ラーニング化に向けた授業デザイン、取組検証の一環としての学生からの意見聴取、学外の有識者等を委員とする評価委員会の開催等を行っている。

## 2. 取組の成果と現状

### ①学修ポートフォリオシステム

- ・「レーダーチャートで自分に足りない能力が可視化でき、履修計画の参考にした」等、学生から概ね好評であった。
- ・「学修の振り返り」を入力した学生群は、入力しない学生群より GPA 平均が高い傾向にある。
- ・学生の「学修の振り返り」については、学科毎の特徴が出ているのに対し、「学修目標設定」については、学科による大きな特徴の差異はなく、全学でほぼ同様な傾向となっている。
- ・「レーダーチャート」により、学生ごとの特徴(例：評価項目「〇〇力」が伸びた等)が見られるため、個々の学修指導に有効であった。等

### ②授業収録配信システム

- ・「復習用授業コンテンツ」：授業中に理解が十分でなかった部分の復習に有効であった等、学生や教員から好評であった。
- ・「予習用授業コンテンツ」：反転授業等に活用され、能動的学習の促進につながった。
- ・本システムの利用により、学生の授業外学習時間が増加した。等

## 3. 今後の課題と展望

- ・「レーダーチャート」結果をふまえた、科目、カリキュラム等に対する PDCA の実施。
- ・適切な「学修目標」設定を促すための教育やフィードバック等の個別指導の充実。
- ・入力率向上・利活用促進のための、学生が利用する諸システムの統合。
- ・「学修の振り返り」入力と「GPA 平均」の相関の検証。等

以上